

トークンレス・ワンタイムパスワード

PassLogic

エンタープライズ版

バージョンアップ概要とリリースノート(エンタープライズ版 v4.1.1)

2019/3/14



1. リリースノート
2. 主な機能アップ
3. 動作環境や仕様変更

PassLogicの歩み

マトリックス専用から「多要素認証プラットフォーム」へ高機能化！

1997

「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システム PassLogic 認証方式を発明。

2000-2006

パソロジック方式の技術ライセンスを日本企業へ提供。

2008

Webサービス組み込み用APIを強化。スマートデバイスにいち早く対応。

2010

セキュリティポリシーや運用機能、連携機能など基本機能を大幅に拡充。英語対応し海外展開が可能に。マルチテナント版リリース。

2012

マルチテナント版機能拡充しサービスプロバイダのデファクト採用の礎に！
(ソフトバンク/富士通/KDDI/NEC/IIJなど)

70万ID突破

2015

100万ID突破

エンタープライズ版の機能拡充。主要連携製品とメーカー間の検証を完了。ソフトウェアトークン提供開始

2017

IPアドレス制限、Windowsログイン、PKIに対応のメジャーバージョンv3.0リリース。

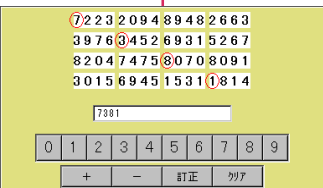
ハードウェアトークン対応、API提供開始のv3.1リリース

110万ID突破

1997

2000

PassLogic認証方式が米国特許(US6141751)を取得。会社設立。



2007

PassLogicのパッケージ販売を開始。SSL-VPN連携機能を実装。

2009

Webアプリとの連携機能 (リバースプロキシ&SSO) を実装。LDAPからのユーザーID同期を実装。

2011

クラウドアプリ連携 (SAML) に対応。スマートデバイス最適化。

2013

80万ID突破

運用の自動化を実現する機能拡充。

2014

90万ID突破

小規模から大規模要件まで対応可能なエンタープライズ版をリリース。

2016

110万ID突破

利用者視点の機能強化を中心に、計5回のバージョンアップ、約70の機能追加・改善を実施。

2019

100万ID突破

エンタープライズ版にマルチテナント機能提供開始



V3系のライフサイクルについて

2019年3月のPassLogic Ent v4系のリリースに伴い、v3系のライフサイクルが下記の通り確定しております。

対象バージョン	EoS	EoL
PassLogic エンタープライズ版 v4系	v5.0の提供開始後に日時決定	EoSから5年後
PassLogic エンタープライズ版 v3系	2019/8/31	2024/8/31
PassLogic エンタープライズ版 v2系	2017/11/18	2022/11/18
PassLogic エンタープライズ版 v1系	2015/10/15	2020/10/15

メジャーバージョンアップ版は年間保守サポートサービスのなかでソフトウェアプログラムをご提供します。

EoS : End of Sales (販売終了)
EoL : End of Life (サポート終了)

リリースノート

リリースノート

pickup 左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

【新規機能】

- ・1つのPassLogicに複数企業を収容可能とするマルチテナントモードが実装されました **pickup**

【機能改善・不具合修正】

+ 認証関連

- ・PassClipスロット登録回数制限の機能を追加しました **pickup**
- ・PassClipスロット名称をPassLogicサーバ側で指定できるようになりました
- ・PassClip認証にPINを追加できるようになりました **pickup**
- ・PassLogic for WindowsDesktopにおいて、PassClip、TOTP、固定パスワード認証にも対応しました **pickup**
- ・PassLogic for WindowsDesktopがMicrosoftアカウント(各端末のローカルユーザー)でログオンできるようになりました **pickup**
- ・PassLogic for WindowsDesktopがWindowsServer2016にも対応しました
- ・ユーザ登録・編集の確認画面で、TOTP認証のPIN設定有無が表示されない不具合を修正
- ・Windows Updateによるマイクロソフト製ブラウザ（IE,Edge）のクライアント証明書提出の仕様変更に対応しました

+ 連携関連

- ・RADIUS連携において、アトリビュート認証（Calling-Station-Idなどのリクエストアトリビュート値で認証）が実装されました **pickup**
- ・RADIUS連携において、ユーザに紐づく情報をレスポンスアトリビュート値として設定できるようになりました
- ・RADIUS連携において、SSO設定の認証先URLとして、パソコン用とスマートデバイス用のURLを設定できるようになりました
- ・RADIUS認証の内部処理で2ステップの認証があるため、パスワード一致と、RADIUS認証が成功の2段階に分けてログを出力するようにしました
- ・Rverse Proxy連携において、BASIC認証用のパラメータを管理画面から登録できるようになりました
- ・Rverse Proxy連携時の仮想パスの登録において、文字数が上限に達していないのに登録できない不具合を修正しました
- ・Rverse Proxy連携時の仮想パスの登録において、前後に「/」が含まれていない場合、自動補完して設定するようになりました
- ・Rverse Proxy連携において、「/passlogic-maintenance/」が設定不可の仮想パスとして追加されました



リリースノート

pickup

左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

+ その他

- ・ログファイルの記述フォーマットが変更になりました
- ・PassLogicゲートウェイサーバ経由のアクセスであっても、クライアントのIPアドレスをログ出力するようにしました
- ・管理ツールで交換用トークンを設定した時に出力されるログを正しいログ(30009→30017)に修正しました
- ・冗長化時において、両系サーバで異なる設定を持たせるための仕組みが実装されました
- ・冗長化時において、LDAP ID同期などの定期処理を行うサーバを指定できるようになりました（定期処理を行うサーバはメンテナンス画面上で切り替えられます）
- ・冗長化時に、ユーザ情報のみをリカバリするための「recovery_DB」のリンクが廃止となりました
- ・通知メール用のテンプレート文案が新しくなりました
- ・/opt/passlogic/data/conf/settings.conf が廃止され、管理ツール上で設定できるようになりました
- ・メンテナンスツール（バックアップ・リストア、冗長構成管理、ライセンス管理、サポート情報、サーバステータス表示など）を独立して管理できるようにしました
- ・管理者用のポリシーを、ユーザー用のポリシーと分けて設定できるようになりました
- ・テクニカルサポート用のファイルに /var/log/messages が含まれるようになりました
- ・ユーザアカウント有効期限、ルート証明書、クライアント証明書発行時に過去の日付を入力補助用カレンダーで指定できないようにしました
- ・パターンの登録において、乱数表座標の1～9番の位置を指定する際に、前ゼロ(01～09)の指定を許容するようになりました
- ・ユーザのステータス変化(ロック、無効、有効期限切れ、削除)をPassLogicログイン中のユーザにも即時適用するようになりました
- ・外部のメール配信サービスが提供するAPI を利用してメールを送信できるようになりました
- ・メールサーバの設定において、SMTPメール使用時、ISO-2022-JPとUTF-8の文字エンコードを選択できるようになりました
- ・ログ検索結果のダウンロード機能が追加されました
- ・ログ検索時に、ドメイン名とログコード番号でも検索ができるようになりました
- ・ログ検索時に、日付入力補助カレンダーで期間指定ができるようになりました
- ・ポリシー単位ではなく、システム全体を通してWebTokenを利用する/しないを指定できるようになりました



リリースノート

pickup 左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

- ・登録ユーザ数/最大ユーザ数、DBステータス、ミドルウェアステータスを取得するAPIを追加しました **pickup**
- ・パスワード変更用PassLogic APIが追加されました
- ・PassLogic API において、userread等で暗号化されて出力されていたデータを復号化して出力するようにしました
- ・PassLogic API の外部公開を、管理画面から許可/拒否できるようになりました
- ・管理ツールのメニュー項目がカテゴリ毎に整理されました
- ・PassLogic内の一部の用語が変更されました **pickup**

【動作環境や仕様変更点】

- ・LDAP認証連携時のグループマッピングの機能が廃止されました（LDAP ID同期/認証連携におけるLDAP属性値のマッピング機能は従来通りご利用いただけます）
- ・DBでのログ保持を廃止し、ファイルのみで保持するようにしました **pickup**
- ・ユーザー情報の他、各種設定もDBで管理するようにしました **pickup**
- ・PassClip認証で利用可能なソフトウェア・トークンは「PassClip-L」に統一されました
- ・RHEL6のライフサイクル期限を鑑み、PassLogicのサポート対象OSとしてRHEL6を非サポートとしました
- ・メーカーサポートが終了しているバージョンのブラウザを推奨ブラウザから除外し、メーカーサポート継続中のブラウザのみをサポート対象としました **pickup**
- ・スタンダード版からの移行方法が変更となりました。それに伴いスタンダード版データ取り込み機能が廃止となりました



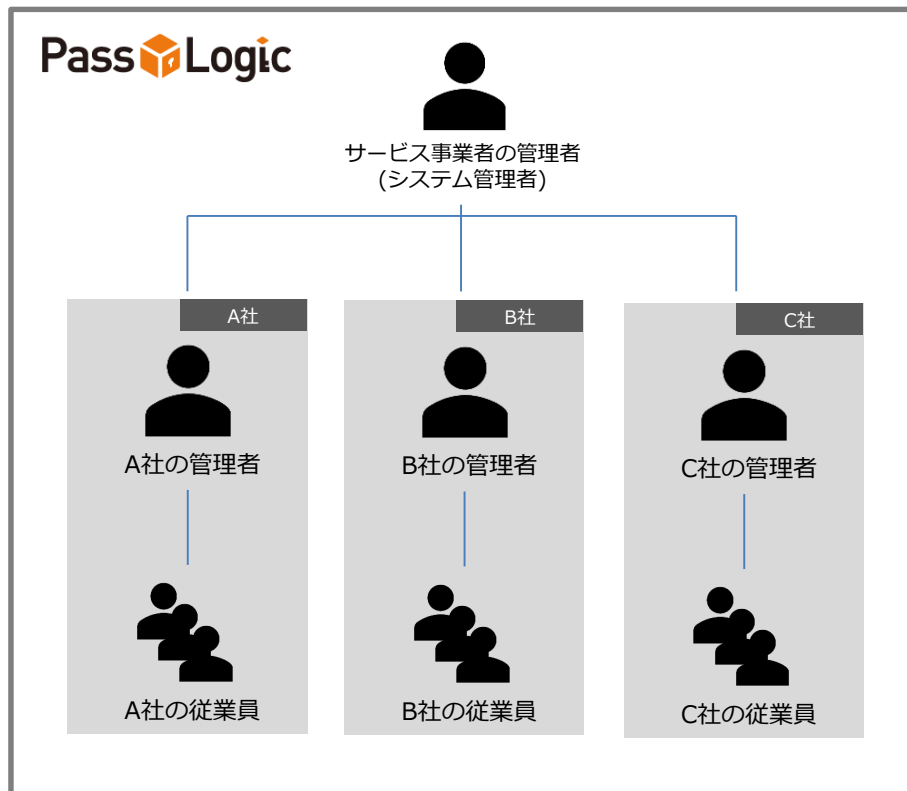
主な機能アップ

マルチテナント機能が実装されました

PassLogic認証サーバ1台に複数の企業を収容するための機能です。

1. 自社サービスの付加価値として、認証強化オプションを提供したい
2. 認証ASPやIDaaSを自社ブランドで提供したい

など、PassLogicをサービス提供される事業者にも有用です。

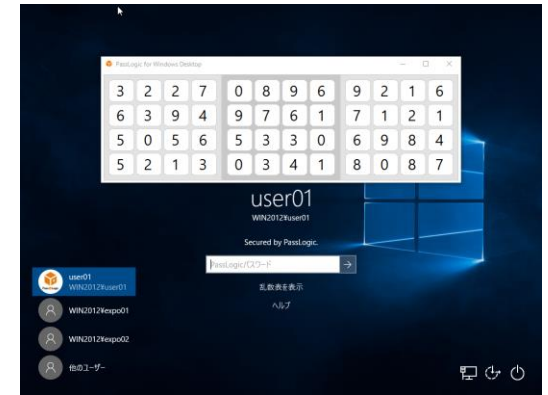


■ ご注意ください

マルチテナント機能はオプション機能です。
ご利用されたい場合は、提供形態や費用、制限事項など詳細についてパスロジまで直接お問い合わせください。

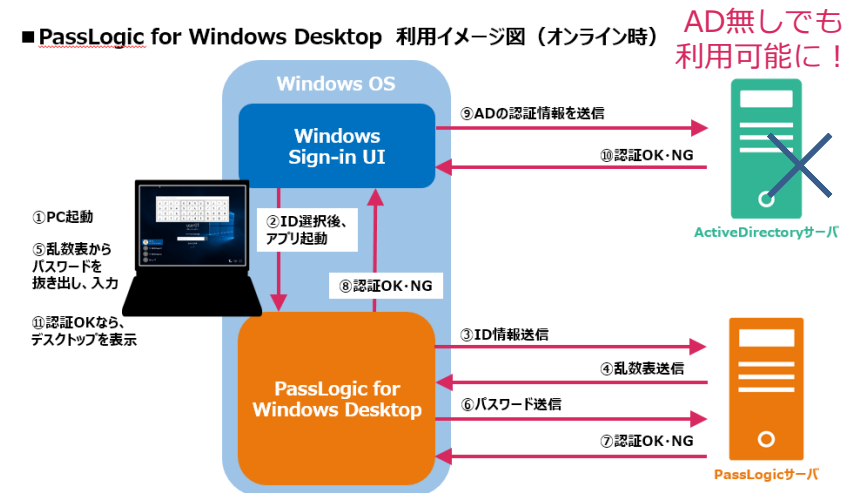
トークンレス以外の認証方式に対応

PassLogic for WindowsDesktopの認証方式は、PassLogic認証のみ対応でしたが、ハードウェアトークンや、ソフトウェアトークンにも対応しました。



AD不要で利用可能に

PassLogic for WindowsDesktopが、ローカルアカウントや、Microsoftアカウントでも利用できるようになりました。ADが導入されていない環境でもWindowsのログインを強化可能になります。



PassClip認証関連のアップデートについて

2要素認証対応

PINを組み合わせた2要素認証が可能になりました。

ビンゴ型表示モードでは2要素認証が可能でしたが、ベーシック表示モードでも2要素認証が可能になりました。



所有物認証

+ PIN

記憶認証

登録回数の制限機能

スマートデバイスを登録する際に、アクティベーションURLで何回登録を許容するかを指定できます。スマートフォン1台のみを登録を許容したり、スマートフォンとタブレットの2台まで許容するなど、お客様環境や運用に応じて変更可能です。

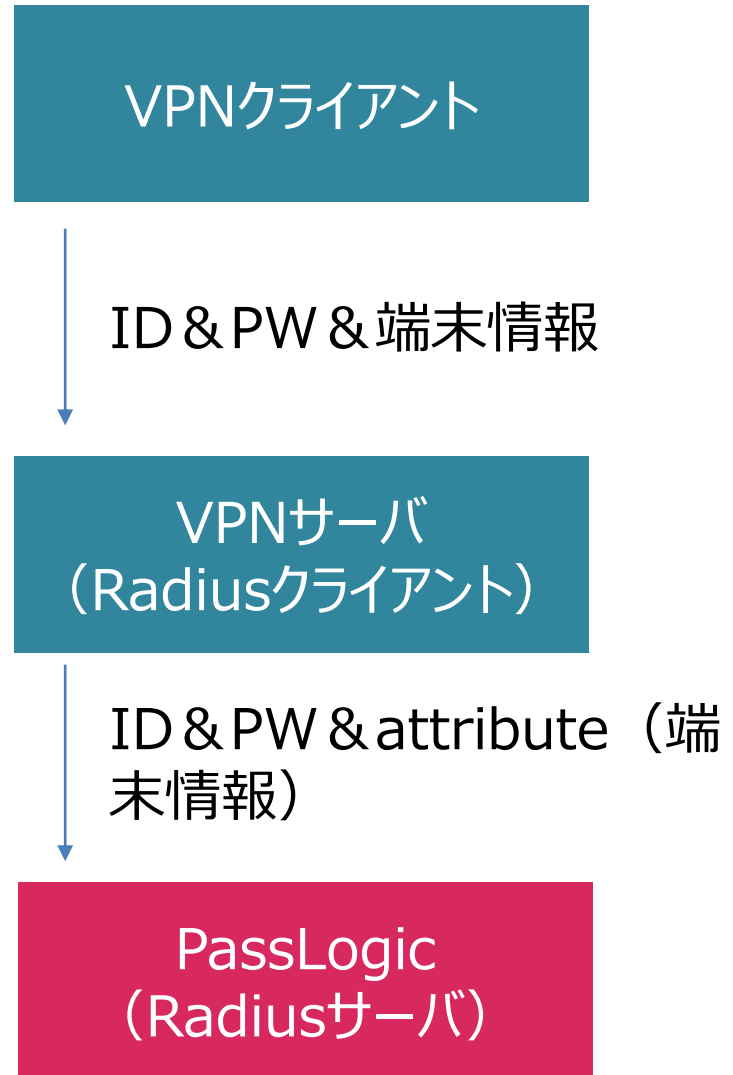


1台のみの登録

Radiusアトリビュート認証

Radius連携時に、アトリビュート値を使った認証が追加できるようになりました。

Calling-Station-Idなどのattribute値を用いて、発信者電話番号やMACアドレスによる追加認証を想定した機能です。（Radiusクライアント側が端末情報を抽出しattribute送信する必要があります。）



IDとPWの認証に加えて、PassLogicサーバにあらかじめ登録されている端末情報と照合して合っている場合にログインを許可する

サーバ情報を取得する監視用APIを追加

サーバ情報を取得するためのPassLogic APIを追加しました。サーバの状態を監視するためにご利用いただけます。

(監視用APIは拡張保守サポートオプション不要でご利用いただけます。)

DBステータス

PassLogicのDBステータスをAPIを通じて取得できるようになりました。これによりDBの稼働状況を確認できます。

ミドルウェアステータス

PassLogicのミドルウェアステータスをAPIを通じて取得できるようになりました。ミドルウェアの稼働状況を確認できます。

登録ユーザー数

PassLogicに登録されているユーザー数をAPIを通じて取得できるようになりました。LDAP/ADとID同期をしている場合など、定期的にユーザー数を取得して監視することができます。

PassLogicの一部用語が変更

PassLogicで使用している用語が一部変更になりました。

旧名称	新名称
シークレットパターン	パターン
スタティックパスワード	追加フレーズ

その他、管理画面上のメニュー名や項目名称が微調整されております。
画面イメージは次のページをご参照ください。

ご参考) PassLogicの一部用語が変更

管理画面上のメニュー名や項目名称、メニューの順番などが微調整されております。

※管理カテゴリ毎にメニュー項目を整理

PassLogic Authentication Server System - version ent-3.1.0

日本語(ja) 送信

Admin数	3
登録ユーザ数 / 最大ユーザ数	9 / 1000
シリアル番号	201810051

DB Status

DB 0	Node Run
DB 1	Initial Stan
DB 2	Initial Stan
DB 3	Initial Stan

Server Status

httpd	Active: acti Main PID: 7
MTA	Active: acti Main PID: 8

PassLogic Authentication Server System - version e

アカウント管理 送信

管理者数	1
登録ユーザ数	0
最大ユーザ数	1

各種設定

その他

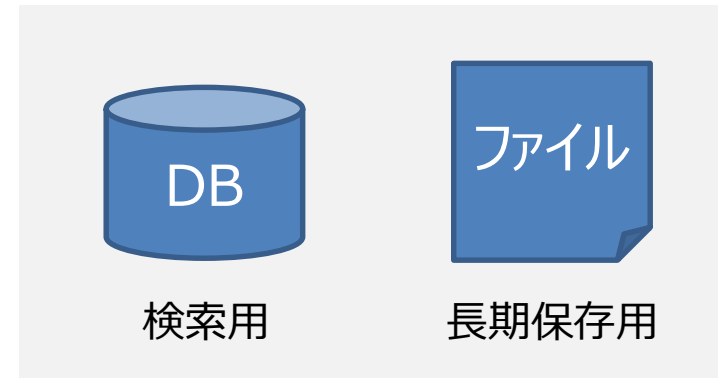
動作環境や仕様変更

DBでのログ保持を廃止し、ファイルのみで保持

DB（データベース）でのログ保持を廃止し、ファイルのみで保持するようにしました。

Ent-v3系以前は二重管理

DBとファイルの両方にログを保存していたため、二重に容量が必要でした。また、DB上のログが膨大になると動作が不安定になる場合があります。



Ent-v4系からはファイルのみで管理

検索用も長期保存用も分けることなく、ログファイルのみで管理ようになります。

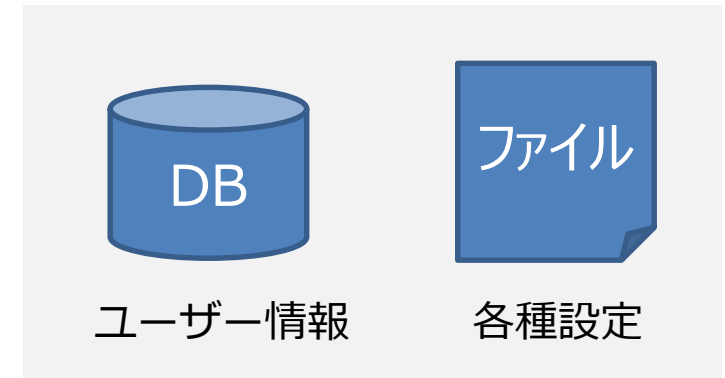


ユーザー情報、各種設定ともDBで管理

ユーザ情報、各種設定をDB（データベース）で一元的に管理するように変更しました。

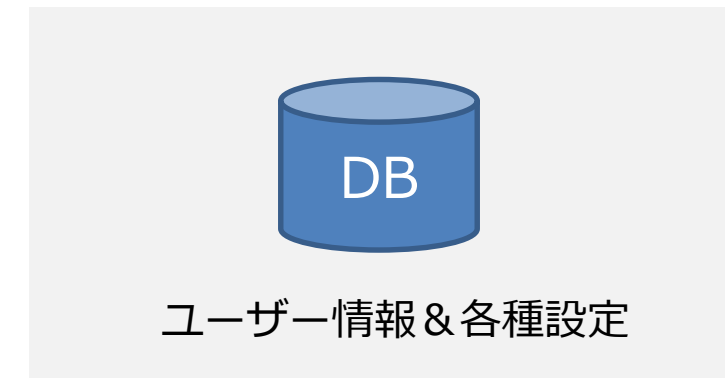
Ent-v3系以前はデータ保持が分離

DBでユーザ情報、ファイルで設定（連携設定など）を保持・管理していたため、設定については同期されず、設定を変更するたびに別途コピーなどが必要でした。



Ent-v4系からはDBで管理

ユーザー情報も各種設定もDBで管理するようになり、設定も同期させることができるようになりました。



推奨ブラウザの変更

メーカーサポートが終了しているブラウザを推奨ブラウザから除外し、メーカーサポート継続中のブラウザのみをサポート対象としました。

除外されたブラウザ

Internet Explorer 9,10
iOS 7,8,9,10
Android 4,5,6

追加されたブラウザ

iOS 11,12
Android 7,8,9